

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器集団検診機関

一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会（現：日本消化器集団検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位に「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満24年余を経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行なう一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第61回協議会 平成18年7月5日(木)
(2) 第62回協議会 平成19年1月17日(水)

2. 幹事会の開催

- (1) 第78回幹事会 平成18年6月23日(金)
(2) 第79回幹事会 平成19年1月17日(水)

3. 研修会

日 時：平成19年 2月17日(土)
日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会
第39回放射線部会総会で特別シンポジウムを共催
で開催

4. 技術部会

日 時：平成18年11月6日(月)

5. 講習会（がん検診 X線撮影従事者講習）

日 時：平成19年 1月26日(金)
主 催：神奈川県 *共催機関として協力

神奈川県消化器集団検診機関

一次検診連絡協議会名簿

横浜市立市民病院がん検診センター	会 長	今村 清子
横浜市立市民病院がん検診センター	検診担当部長	石山 暁
川崎市がん検診センター	所 長	川原 英之
(財)逗葉地域医療センター	施 設 長	河村 攻
(医)松英会	理 事 長	寺門 運雄
(財)京浜保健衛生協会	理 事 長	矢作 淳
(医)倉田病院健康管理室	院 長	倉田 康久
神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター	センター長	須田 嵩
(財)神奈川県労働衛生福祉協会	会 長	藤原 孝憲
(財)結核予防会神奈川県支部	専務理事	磯部 仁美
(財)神奈川県予防医学協会	理 事 長	土屋 尚
神奈川県立厚木病院	病 院 長	田代 和也
(医)社田相和会産業健診事業部	理 事 長	土屋 章
(医)藤順会藤沢総合健診センター	理 事 長	石井 敏之

相談機関

神奈川県保健福祉部健康増進課	課 長	玉井 拙夫
神奈川県医師会	理 事	石井 出
神奈川県医師会	理 事	羽鳥 裕

平成19年8月1日現在
(事務局・熊沢明)

神奈川消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師もしくは、その仕事に携わる人々を対象にお互いの知識・技術の向上をめざし、日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、昭和大学藤が丘病院 消化器内科の遠藤 豊先生に世話人をお願いし、下記のとうり行われた。

第26回神奈川消化器内視鏡技師研究会

日 時 平成18年4月23日(日)
会 場 (財)横浜市教育会館
技師世話人 昭和大学藤が丘病院
内視鏡室 藤森 弘樹

内 容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会

一般演題 5題

特別講演 「上部内視鏡治療の実際」

パネルディスカッション

「内視鏡クリニカルパスの現状と今後の課題」

入場者 545名

特別講演は、癌研有明病院 健診センター 高橋 寛先生がお引き受けくださり、癌研の特色を交えた内視鏡検査の様子を伺うことができた。

パネルディスカッションでは「クリニカルパス」を取り上げ、各施設の導入の実際・メリット・評価を報告していただき会場を交えて、運用の現状と今後の課題について活発に意見が交換され、他施設を知ることによりお互い今後の活用方法の参考とすることができる貴重な情報交換の場となった。

顧 問 (五十音順)

青木 誠孝	青木医院
小泉 博義	藤沢湘南台病院
比企 能樹	北里大学病院名誉教授
藤田 力也	昭和大学藤が丘病院名誉教授
三輪 剛	東海大学医学部病院名誉教授
山川 達郎	帝京大学溝口病院外科

役 員

青地 広美	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
片野早江子	聖マリアンナ医科大学病院
上條のり子	昭和大学藤が丘病院
木下千万里	淵野辺病院
星野 朱美	横須賀共済病院
佐藤 和夫	神奈川県労働福祉協会
佐伯 美奈	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院
菅原ゆかり	松島クリニック
瀬戸 道雄	青木医院
谷合 幸乃	横浜市職員
納所けい子	神奈川県予防医学協会
中村 深雪	横浜市民病院
花木由香里	村松内科胃腸科クリニック
藤井あずさ	丹羽病院
藤田 賢一	帝京大学溝口病院
藤森 弘樹	昭和大学藤が丘病院
松橋 妙子	国際親善病院
三浦 美保	北里大学東病院
武藤美枝子	東海大学病院

(事務局・納所 けい子)

横浜市マンモグラフィ判定委員会

厚生労働省のがん検診の指針に則り、横浜市は13年10月よりマンモグラフィ装置のある市内の45医療機関（平成19年4月現在53機関）を対象にマンモグラフィ併用検診を開始した。

17年7月から、対象者を40歳以上の隔年とし、40歳代には2方向撮影、50歳以上には1方向撮影にて実施している。

システムとしては、上記医療機関では視触診とマンモグラフィを同時実施とし、装置のない医療機関は視触診のみを実施し装置のある医療機関でのマンモグラフィ撮影を行い、一次読影を撮影医療機関で行ってフィルムを判定委員会に送付する。判定委員会では二次読影を行い、読影結果とフィルムを視触診を実施した医療機関に返し、そこで総合判定を行い受診者に説明するというシステムである。

判定委員会システムの運営は、事務局としての当協会が担当している。

判定委員会には撮影に従事する放射線技師も参加し、医師、技師による合同判定会として運営されている。更に検診に参加している医療機関の医師、技師にも公開され、検診レベルの向上に努めている。

判定会開催（18年4月～19年3月）93回

検討会 6月2日

- ・ 乳がん検診管理委員会報告及び課題検討
- ・ 検診実績報告
- ・ 症例検討

判定委員会委員長

聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科教授
福田 護

- 〳 副委員長 八十島クリニック 八十島唯一
- 〳 判定委員 32名

（事務局・栗原博）

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

地域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始された。53年度以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに協会が委託を受け実施した。

その後昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、当協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長＝福田護・聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授）」が新たに発足し、検診の実務が遂行されている。

同連絡会は「県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん部会（部会長＝福田護・同上、事務局＝県保健福祉部）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置されている。

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

（敬称略：順不同・平成19年8月1日現在）

会長・聖マリアンナ医科大学病院 福田 護
（乳腺・内分泌外科 教授）

医療機関名	代表医師名
横浜市立大学医学部（第一外科）	利野 靖
横浜市立大学医学部（第二外科）	石川 孝
横浜船員保険病院	上妻 達也
昭和大学藤が丘病院	真田 裕
横浜南共済病院	松川 博
日本医科大学付属第二病院	山下 浩二
聖マリアンナ医科大学病院	緒方 晴樹
藤沢市民病院	仲野 明
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
北里大学病院	蔵並 勝
国立相模原病院	秋山 憲義
平塚共済病院	片山 清文
小田原市立病院	小山 隆史
山近記念総合病院	久保田光博
西湘病院	原 俊介
秦野赤十字病院	鈴木 弘治
東海大学病院	徳田 裕
三浦市立病院	小澤 幸弘
大和市立病院	竹下 利夫
東海大学大磯病院	大谷 泰雄
伊勢原協同病院	篠田 政幸
平塚市民病院	金井 年雄
熱海病院	岩崎 博幸
海老名総合病院	内山喜一郎
津久井赤十字病院	荒井 義孝
東芝林間病院	竹中 晴幸
相模台病院	坂本いづみ
横浜旭中央病院	櫻井 修
横浜掖済会病院	高橋 利通
横浜市南部病院	池 秀之
横浜医療センター	土井 卓子

（事務局・熊沢英明）

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会はマンモグラフィ・乳房超音波検査・乳房画像診断・病理診断に携る県下の放射線技師・医師をはじめ、その検査を受ける立場の一般の方に至るまでを対象とし、早期乳がんを発見するために、画像診断力や精度管理の知識向上を目指し普及活動を行なっている。

平成10年12月に発足し7年目を迎え、平成18年12月には第30回の開催に至る節目の年でもある。一方、平成16年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も3年目に入り、益々広い範囲で活動を推進している。

世話人代表 萩原 明
平成18年度 神奈川乳房画像研究会
神奈川乳房超音波画像研究会 活動状況
《第28回研究会》《第5回超音波研究会》

平成18年6月17日(土) 参加人数 195名
1. 「マンモグラフィで迷った症例とマンモトーム生検」

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
外科部長 土井 卓子

2. 「マンモトーム生検の現状」
独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
放射線科 川崎あいか

3. 「臨床画像評価」
神奈川乳房画像研究会世話人
神奈川乳房超音波画像研究会世話人

4. 「フィルムリーディング」
埼玉県立がんセンター病理部部长 黒住 昌史
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
画像診断部 池田 裕三

北里大学病院 臨床検査部 宇治橋善勝
《第29回研究会》《第6回超音波研究会》
平成18年10月14日(土) 参加人数 228名

1. 「進化・変貌しているマンモグラフィ検診一症例から学ぶこと」
名古屋中日病院 乳腺科 森田 孝子

2. 「臨床画像評価」
神奈川乳房画像研究会世話人
神奈川乳房超音波画像研究会世話人

3. 「乳腺病理の入門シリーズ1 フィルムリーディング 基礎編」
埼玉県立がんセンター 病理部部长 黒住 昌史

《第30回研究会》《第7回超音波研究会》
平成18年12月2日(土) 参加人数 149名

1. 「乳房検査の過去・現状そして将来は…」
独立行政法人国立病院機構
名古屋医療センター放射線科部長 遠藤登喜子

2. 「マンモグラフィってなに？」
ジャーナリスト 美奈川由紀

3. 「30回を迎える研究会の歩み」
神奈川乳房画像研究会代表世話人
(財)神奈川県予防医学協会専門委員 萩原 明

《第31回研究会》《第8回超音波研究会》
平成19年3月24日(土) 参加人数 240名

1. 「デジタルマンモグラフィの最近の技術的動向」
愛知がんセンター画像診断センター 堀田 勝平

2. 「デジタルマンモグラフィの臨床診断解析」
国立がんセンターがん予防検診・研究センター
内山菜智子

3. 「臨床画像評価」
神奈川乳房画像研究会世話人
神奈川乳房超音波画像研究会世話人

4. 「超音波検査の標準化に向けて」
東京慈恵医科大学附属青戸病院放射線部 松原 馨
(事務局・見本 喜久子)

神奈川県健康管理機関協議会

当協議会は、昭和56年に神奈川労働基準局労働衛生課(当時)の指導の下で、県内で労働衛生に携わっている機関のうち、中小企業労働者健康管理事業助成制度の名簿登録機関18機関が参加して自主的に発足した。

平成18年度の会員機関は16機関で、企業の健康管理を側面から支援するために、より質の高いサービスを提供すると共に、労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的に運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に年2回の協議会を開催してきた。

平成18年度活動状況

第1回協議会(平成18年9月21日)

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・平成18年度神奈川労働局行政運営方針の概要
 - ・平成18年度労働衛生行政のあらまし
 - ・平成18年度全国労働衛生週間実施要綱
2. 講演

テーマ:「日本医師会の現状と今後」
講師:社団法人 日本医師会 常任理事 内田 建夫様

- (1) 日本医師会の現状と立場
- (2) 医療改革制度の概要
- (3) 日本医師会としての課題と対応

3. 情報交換

第2回協議会(平成19年4月13日)

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・平成18年度神奈川労働局行政運営方針の概要
 - ・平成18年度労働衛生行政のあらまし
 - ・地域産業保健センターを活用した長時間労働者の健康確保対策
2. 講演

テーマ:「平成20年度からの特定健診・特定保健指導の実施に向けて」
講師:健康保険組合連合会神奈川連合会 会長代理 白川 修二様

- (1) 厚生労働省三検討会の決定事項概要
- (2) 保険者側の今後のスケジュール
- (3) 健保連の取組み方向

3. 情報交換

機関名 ▲代表幹事 ●幹事

- ▲(財)神奈川県予防医学協会
- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (財)ヘルス・サイエンス・センター
- (財)京浜保健衛生協会
- (財)結核予防会 神奈川県支部
- (財)全日本労働福祉協会
- (財)日本予防医学協会 東日本統括センター
- (財)労働衛生協会
独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院 健康管理センター
- (財)労働科学研究所
- (医)社団 日健会 日健クリニック
- (医)社団 相和会
- (社)衛生文化協会 城西病院
独立行政法人 労働者健康福祉機構 横浜労災病院 海外勤務健康管理センター
- (財)逗葉地域医療センター
- (財)神奈川県厚生農業協同組合連合会 健康管理センター

※平成19年3月31日現在
(事務局・根本 克幸)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登載機関）の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川労働局の指導の下に発足し自主的に運営されている。その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供するための協議する場とすることである。

平成12年度よりT H Pステップアッププランとして支援が行われていましたが、依然として中小規模事業所における取組みが脆弱であり、より広くT H Pの普及定着を図ることが必要であることから平成19年度より中小規模事業所における健康づくり支援事業は「T H Pデモンストレーション事業」の実施に移行されます。

「T H Pデモンストレーション事業」は常時使用される労働者数が300人以下の事業所を対象とし、事業所からのご要望に応じて、労働者健康保持増進サービス機関・指導機関を通じて、健康づくりの専門家を派遣し、事業所の実績に応じて健康測定、運動指導等のメニューを提供いたします。

<平成19年度加入機関>

- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (社福)日本医療伝道会 衣笠病院
- (医社)善仁会 横浜東口ヘルスチェッククリニック
- (医財)報徳会 西湘病院
- (医社)こうかん会
- (財)神奈川県予防医学協会

(事務局・北見 護)

肺疾患検討会

肺疾患検討会（昭和56年9月設立）

第119回（平成18年5月30日）

横浜市立市民病院 呼吸器外科

- 1) 食道粘膜切除術後に左緊張性気胸と出血によりショックを起した一例。
- 2) 硬性鏡下に摘出した左主気管支の異物・カニの爪。
- 3) アリゾナ出身の米人にみられたコクシディオマイコーシスの一例。

第120回（平成18年9月26日）

特別講演 横浜市立大学医学部教授 井上登美夫先生。最近の放射線診断学上のトピックス。

第121回（平成18年11月21日）

県立循環器呼吸器病センター 呼吸器外科

- 1) 胸腺全摘術を施行した“胸腺過形成—Hyperplasia”。
- 2) CA19-9高値の右肺内Cystic disease of pancreas。
- 3) CT上解離性大動脈瘤を否定できなかった特発性縦隔線維症。
- 4) 両側巨大ブラの経過と手術治療。
- 5) 同上類似症例
- 6) 上行、弓部大動脈、総肺動脈幹、左腕頭静脈浸潤疑いのある扁平上皮癌に放射線治療後人工心肺スタンバイで左肺全摘術を行なった1例。
本年度は120回の区切りの会で特別講演を井上教授にお願いし、恒例の会では聴かれない放射線学上のお話をして戴いた。会に先立ち会計報告などの会務について幹事会を開催した。

(事務局・井出 研)

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する(社)日本作業環境測定協会会員により設立。現在、支部の会員は、自社5、機関28、指定1、委託2の計36会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成18年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

- ①総会1回 ②機関全体集会1回 ③理事会2回
④技術専門委員会7回

事 業

I. 第17回作業環境測定推進大会 (18. 9. 11)

I. 特別講演

「最近の労働衛生行政の動向」

神奈川労働局労働衛生課長 花形 修身

II. 化学物質等のリスクアセスメントをめぐる内外の動向について

(社)日本作業環境測定協会専務理事 唐沢 正義

III. 職場におけるメンタルヘルス対策

人間総合科学大学人間科学部教授 荻部ひとみ

II. 技術研修会

(1) 第1回技術研修会 (17. 5. 17)

アスベストによる健康障害について

神奈川県立循環器呼吸器病センター

呼吸器科部長 高橋 宏

(2) 第2回技術研修会 (18. 1. 23)

工場見学会:(社)日本作業環境測定協会精度管理センター

(3) 第3回技術研修会 (18. 3. 23)

I. 化学物質等の表示・文書交付制度について

神奈川労働局労働衛生専門官 古屋 強

II. 神奈川における化学物質管理の現状について

(財)神奈川県予防医学協会 芦田 敏文

III. 労働衛生保護具とその使用法について

①講演～労働衛生保護具について

十文字学園女子大学教授 田中 茂

②実技研修 (メーカー担当者)

III. 講習会 (18. 5. 29)

(1) 作業環境測定士試験科目一部免除講習会

役員・技術専門委員

役員	技術専門委員
支 部 長 蒔田 道則	竹平 知義 (労働衛生福祉協会)
副支部長 田原 仁	竹内猪佐夫 (東菱エステート)
〃 井澤 方宏	芦田 敏文 (予防医学協会)
理 事 大角 武志	灰塚 正隆 (オオスミ)
〃 田中 康友	岸 康博 (日産自動車)
〃 平井 廣	(日本ビクター)
監 事 望月 明彦	望月 速人 (山梨労働センター)
〃 池田 善郎	星野 健二 (NKK)
行 政 花形 修身	中村 宏彰 (神奈川労働局)
	(事務局・芦田 敏文)

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し29年目。各地区医師会・行政・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理解除となった者に対する追跡調査のまとめ。

26年間の卒後検診の総括を実施する予定で、基本的なデータの集積を行った。

責任者 藤原 芳人 (本会幹事・横浜市医師会)

2. 調査研究

①学校現場と医療分野の連携を図るため、各市町村養護教諭部会と講演と情報交換の会を実施予定したが、今年度は日程調整がまとまらなかった。

②各地区の判定委員会の現状と問題点の把握

平成18年11月11日(土)

II 総会および研究会

平成18年9月9日(土)

会 場 予防医学協会

テーマ 「学校検尿から発見され、診断・治療・移植を受けた患者の家族の方やご本人様のお話し」

講 師 聖マリアンナ医科大学院長・小児科教授

小坂橋 靖 先生 (経過説明)

高嶋美知子 様 (患者のお母様)

高嶋 祐太 様 (ご本人様)

III 医師部会研究会

1. 第40回研究会

7月8日(土)

会 場 予防医学協会

テーマ

1. 「腎臓病の食事療法」

講師 聖マリアンナ医科大学

栄養部 課長 戸田 和正 先生

2. 「糸球体上皮細胞機能と基底膜透過性」

講師 聖マリアンナ医科大学

小児科 齊藤 陽 先生

2. 第41回研究会

12月9日(土)

会 場 予防医学協会

テーマ

「ネフローゼ症候群の小児から成人へのcarry over」

講師 北里大学医学部

腎臓内科教授 鎌田 貢壽 先生

*平成18年8月に亡くなられた本会幹事・横浜市医師会 故山田卓男 先生よりの寄付金に対し、奥様の山田信保様にご出席いただき感謝状及び花束の贈呈をおこなった

IV 知識普及活動

1. 研究会機関誌「腎」発刊25・26合併号(2,000部)

2. 腎臓手帳500冊販売

3. ホームページ(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

<会長> 小坂橋 靖 聖マリアンナ医科大学 小児科

(平成19年8月1日現在)

(事務局・熊沢 英明)

禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

15年5月施行の「健康増進法」には、受動喫煙の防止が盛り込まれ、神奈川県では、「かながわ健康プラン21」に続いて、17年度より「がんへの挑戦・10ヵ年戦略」が策定され、タバコ対策が重点課題とされている。

19年度は「日本禁煙推進医師歯科医師連盟総会」神奈川県で開催され、その運営を本会が担当する。

18年度活動内容

I 会議

- (1) 理事会 5月28日、1月13日、3月10日
- (2) 総会 5月28日

II 事業

1. 講演会 5月28日
2. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナー
 - (1) 横浜市港南区思春期講演会 7月14日
 - (2) 横浜市港南区防煙イベント 7月26日
 - (3) 横浜市港南区保健活動推進委員会
 - (4) 横浜国立大学講義 15回
 - (5) 横浜市病院協会看護専門学校 9月12日、10月10日
 - (6) 全国労働衛生週間横浜北地区推進大会特別講演 9月5日
 - (7) 神奈川県看護協会講演会 11月17日、1月12日
 - (8) キッセイ薬品 1月11日
3. 禁煙・防煙講演会の講師派遣、参加
 - (1) 学校関係 70回
 - (2) 地域関係 24回
 - (3) 職域関係 4回
 - (4) その他 28回
4. イベントへの参加
 - (1) 上永谷駅前キャンペーン 8月3日
 - (2) すこやかかながわ一万人健康ウォーク「健康生活展」11月11日
5. 関連会議への協力・参加 3回
6. 神奈川県内科医学会 冊子『禁煙医療のための基礎知識』作成への協力
7. マスメディアへの協力
8. メーリングリスト (NL) の運営・管理
9. ホームページの運営

役員 (理事会) の構成 (19年6月23日現在)

会長 中山 脩郎 (中山医院長・神奈川県内科医学会長)
 副会長 渡辺古志郎 (横浜市立市民病院病院長)
 〃 西野 一紘 (神奈川県歯科医師会副会長)
 〃 大野 秀利 (神奈川県薬剤師会常務理事)
 会計、理事、監事 24名 (医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等)

(事務局・栗原 博)

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

1. 月例会

日時、テーマ、講師、参加人数

- ① 4月15日「子どもを伸ばすコミュニケーション」谷口貴彦・コーチング・セブンピース代表・15人
- ② 5月13日「小児・思春期における心身医学」釜野聖子・緑が丘クリニック副院長・16人
- ③ 6月17日「学校現場に活かす心理技法」村尾泰弘・立正大学社会福祉学部・21人
- ④ 7月8日「回復へのプロセス」小見祐子・横浜市立スクールカウンセラー・14人
- ⑤ 9月9日「三つ子の魂、百までも」からの開放、杉田峰康・福岡県立大学名誉教授・23人
- ⑥ 10月21日「クレヨンを使った創造的、治療的な遊び」藤掛明・聖学院大学総合研究所・カウンセリング研究センター・12人
- ⑦ 11月18日「児童・生徒の理解のために」釜野聖子・緑が丘クリニック副院長・18人
- ⑧ 12月9日「マジックを学んで子ども達と心を通わせてみませんか」植井弘子・元中学校養護教諭・11人
- ⑨ 1月20日「小さな声を受け止めていますか？」こんのひとみ・吉川音楽事務所・14人
- ⑩ 2月17日「私の養護実践」森博美・横浜市立中学校養護教諭・8人
- ⑪ 3月27日施設見学会「海洋研究開発機構横浜研究所」・12人

2. 夏期講習会

日 時：平成18年8月8日～10日

テーマ：「自己理解と他者理解の心とこころの響きを求めて」～支援・導入の方法を広げる～

- ① 8日「描画における描線の分析－筆跡学を応用して・星と波描画テスト」杉浦京子・日本医科大学心理学助教授
 - ② 9日「情報化社会と子どものこころ」牟田武生・NPO法人教育研究所理事長、「パーソナリティ理論から学ぶ交流分析」江花昭一・横浜労災病院心療内科部長
 - ③ 10日「ブリーフセラピー入門(2)」長谷川啓三・東北大学教育学部教授
- 会員状況**
 小学校18人、中学校16人、高校・短大12人、その他15人。計61人

役員 (順不同、敬称略、平成19年3月31日現在)

名誉会長 高田 和子
 会長 山口 京子 (前川崎市教育委員会・健康相談室)
 副会長 藤沢 恵子 (横浜市立南舞岡小学校)
 幹事 佐藤まゆみ (神奈川県立川和高校)
 矢野 君江 (川崎市立柿生小学校)
 坂井 悦子 (横浜市立間門小学校)
 平山 京子 (北鎌倉女子学園)
 鈴木 晴美 (横浜市立浦島小学校)
 金子 雅代 (横浜市立白幡小学校)
 浅井 恵子 (前私立横浜中学校)
 中野 保子 (横浜市立日吉台中学校)
 木村千恵子 (川崎市立久末小学校)
 監事 中川 優子 (藤沢市立藤ヶ丘中学校)
 工平 きん (横浜市立勝田小学校)

(事務局・船崎 隆文)